

(対象事業：地域連携強化事業・地域文化資源整備活用事業・ミュージアム支援地域人材育成事業・国際交流拠点形成事業)

事業名：ガラスを楽しもう！子供たちのための体験学習  
プログラムの開発と実践

事業者名：財団法人能登島ガラス美術館振興財団

住所：石川県七尾市能登島向田町125-10

TEL：0767-84-1175

FAX：0767-84-1129

HPアドレス：<http://www.city.nanao.lg.jp>

連携事業者名：有限会社能登島ガラス工房、七尾市立香島  
中学校、七尾市立田鶴浜中学校、七尾市立  
中島中学校、七尾市立能登島中学校

会場：市内の各中学校、石川県能登島ガラス美術館、  
有限会社能登島ガラス工房

事業期間：平成22年6月1日～平成23年3月15日



## 1. 館の使命と本事業の関係

当館は、伝統工芸を振興する石川県と地域に観光産業を根付かせたい能登島町（2004年に市町村合併で七尾市となる）の思いが一致し、1991年に開館した公立のガラス美術館である。

美術館の設置当初に作成した館の基本的な性格には、「美しい自然に恵まれた能登島を舞台に、ガラス芸術の創作活動を推進し、その魅力を発信する。ガラス芸術を介した文化活動の拠点であり、人々に親しまれる開かれた憩いの場となる美術館。」と掲げられている。

これまで、観光資源としての美術館活動に重点を置いてきたが、本事業を通じて地域の人々がガラス芸術に親しみ、特色ある文化活動のできる場としての美術館活動の基盤を作りたい。

## 2. 企画内容

### ①事業目的

本事業は、地域の子供たちにガラスに親しむ機会を提供し、ガラス工芸に関心をもつ子供たちを育成することを目的に、当館が主体となって地域の学校やガラス作家と協力し、実施するものである。また、本事業に携わった施設や個人が、事業を通じて各自の活動にいかせるヒントを得られることも期待する。

### ②事業概要

ガラス美術館の学芸員が、子供向けの体験学習プログラムを2種類（プログラムⅠ：制作体験中心の授業、プログラムⅡ：施設見学中心の授業）を立案し、県内在住のガラス作家、能登島ガラス工房のスタッフの協力を得て体験内容について検討。授業のテーマは「溶ける、固まる ガラスの魅力」。市教育委員会と相談して市内中学校4校に授業の受け入れを打診し、各プログラムにつき2校ずつ授業を実施した。授業の対象者は中学校1年生200人、講師は作家5人と学芸員2人。

○体験プログラムⅠ『ガラスを楽しもう！学校でできる とっておきガラス体験』

プロジェクターを使ってガラスに関する講義を行った後、バーナーワーク＊ガスバーナーでガラス棒を溶かし成形する技法の実演を見せ、生徒各自がマドラー作りをした。

○体験プログラムⅡ『ガラスを楽しもう！ガラス美術館＆ガラス工房で とっておきガラス体験』

美術館で作品鑑賞のマナーを学び、ワークシートを活用しながら実作品を鑑賞した後、工房で吹きガラス

＊ガラスに息を吹きこみ成形する技法 の制作風景を見学した。

### 3. 事業実績

#### (1) 事業の主な内容及び日程

6月～8月

ガラス美術館の学芸員が、子供向けの体験学習プログラム2種類を企画立案。県内在住のガラス作家や能登島ガラス工房のスタッフに講師として事業への参加を打診するとともに体験内容について助言をもらう。

9月～10月

市教育委員会と相談しながら、市内中学校4校に授業の受け入れを打診。受け入れ可能な回答を得たのち、授業実施日時の検討のため各学校の教務担当者と打合せを行う。

11月～1月中旬

体験授業で使用する道具、材料の調達。ガラス作家、学校教員と授業内容について詳細な打合せを行う。

1月下旬～2月下旬

体験授業を実施。(授業対象者：市内中学校1年生 計200人 授業講師：作家5人、学芸員2人)

授業のテーマ「溶ける、固まるガラスの魅力」

#### ◆体験プログラムⅠ

『ガラスを楽しもう！学校でできる とっておきガラス体験』

実施日／中島中学校1月27日(木)、田鶴浜中学校1月28日(金)

実施場所／各中学校 理科室

対象者／田鶴浜中学校1年生(40名)、中島中学校1年生(65名)

講師／ガラス作家 有永浩太氏、金子和美氏、齊藤秀輝氏、待寺裕之氏  
ガラス美術館学芸員 今井恵美、床坊睦美

所要時間／1クラスにつき120分 \*各中学校とも2クラスあり、2回の授業を行った

はじめに、美術館学芸員がプロジェクターを使って、ガラスの歴史、原料、加工について紹介し、次に、ガラス作家がバーナーワークのお手本を見せた。その後、生徒たちは4班に分かれてマドラー作り(成形体験)を行った。

生徒たちの学習を高めるため、授業の要点を書いたワークシート(穴あき箇所がもうけてある)を準備し、授業で聞いた内容をシートに書き込んでもらうようにした。



#### ◆体験プログラムⅡ

『ガラスを楽しもう！ガラス美術館&ガラス工房で とっておきガラス体験』

実施日／香島中学校2月1日(火)、能登島中学校2月22日(火)

実施場所／能登島ガラス美術館、能登島ガラス工房

対象者／香島中学校1年生(79名)、能登島中学校1年生(16名)

講師／ガラス工房スタッフ 佐野安正氏

ガラス美術館学芸員 今井恵美、床坊睦美

所要時間／1校につき90分 \*学校から各施設までの移動時間は含まない

美術館では、学芸員から館内鑑賞に関するマナーについて説明があり、その後、学芸員の誘導でワークシートを使った作品鑑賞を行った。工房では、スタッフからガラスの特徴や工房の設備について説明があり、その後、吹きガラスの制作現場に入って代表生徒の一輪挿し作りを見学した。\*香島中学校は生徒数が多いため見学コースを2班交代で行った

また、両校からの要望で、事業外でガラス彫刻 \*電動ルーターでガラスの表面を削る技法 の制作体験授業を行った。



2月～3月中旬

アンケートの集計ならびに作家との意見交換会を行う。事業の内容をまとめた記録集の編集、発行。

## (2) 参加者の数

参加者人数 延べ 200人

内 訳： 田鶴浜中学校 1年生 (2クラス 40人)

中島中学校 1年生 (2クラス 65人)

香島中学校 1年生 (3クラス 79人)

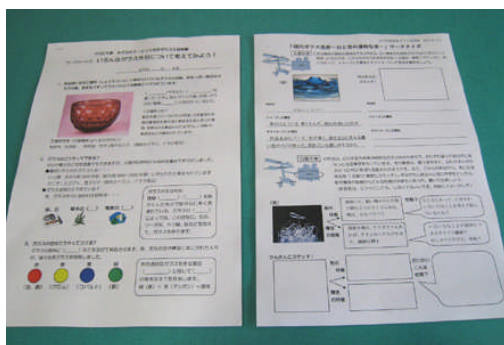
能登島中学校 1年生 (1クラス 16人)

## (3) 事業により作成した印刷物等

○ワークシート (2種類)

体験プログラムⅠワークシート 110部、体験プログラムⅡワークシート 100部

○記録集 700部



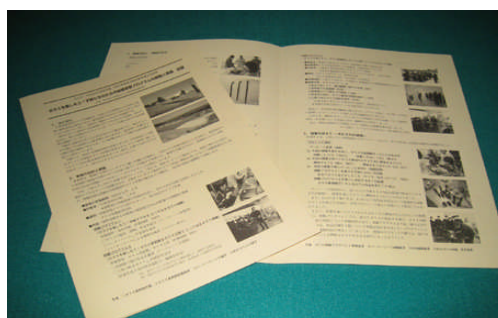
2種類のワークシート



ワークシートを使った授業風景①



ワークシートを使った授業風景②



記録集

## (4) 実施事業に関する新聞記事等

○新聞記事

北国新聞 (県内版)

平成 23 年 1 月 28 日 (金) 朝刊

平成 23 年 2 月 2 日 (水) 朝刊

北陸中日新聞 (県内版)

平成 23 年 1 月 29 日 (土) 朝刊

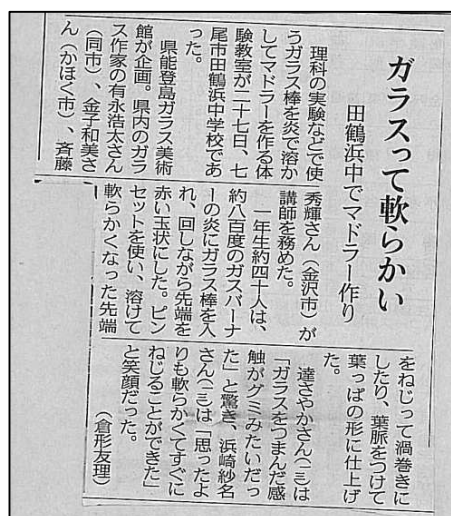
○テレビ、関連誌等

NHK金沢放送局

平成 23 年 1 月 30 日 (土) 放送

ケーブルTVななお

平成 23 年 2 月 18 日 (金) 放送



北陸中日新聞 掲載記事



#### 4. 事業の成果及び今後の課題（参加者の意見を含む。）

##### 事業の成果

能登島地区以外の学校では初めての体験授業であったため、子供たちの反応に期待と不安があった。授業後に行ったアンケート結果から、94%（200人中188人）の生徒がガラスに興味をもつことができたと回答し、この授業が子供たちに受け入れられたことがわかった。今回、2つの異なる体験プログラムを用意したが、自分の手で加工し、自分の目で実作品を見るといった直接的な体験が子供たちには有効であると言える。また、ガラス作家の方々と交流できたことも子供たちの中では、強く印象に残ったようだ。

- |   |
|---|
| Q. 今回の授業を受ける前に、ガラス工芸体験をしたことがあるか                 |
| 体験した 27人（13.5%）      体験していない 173人（86.5%）        |
| Q. 今回の授業を受けてガラス素材やガラス工芸に興味をもてたか                 |
| 興味をもてた 188人（94%）      興味をもてなかった 12人（6%）         |
| Q. 今回の授業で楽しかったことは何か（複数回答）                       |
| 体験プログラムⅠの1位回答<br>自分でガラスをとかしたこと（マドラーを作ったこと） 100人 |
| 体験プログラムⅡの1位回答<br>ガラス美術館でいろんなガラス作品を見たこと 85人      |

子供たちを対象にしたアンケート結果（抜粋）

ガラス作家からは、対象が中学生ということもあって心配していた安全面について特に問題もなく、授業を楽しむ子供たちの様子が身近に感じられて良い経験になったとの感想があり、当該事業が今後も継続するのなら協力したいとの意見が寄せられた。

学校教員からは、授業の内容、時間は適当であったし、ワークシートの活用も授業のポイントを導くために良かったとの意見が寄せられた。また、今回の授業では、教員が制作体験に参加したり、関連授業を行ったり、積極的に授業に参加する光景がみられた。

##### 今後の課題

美術館が近隣の施設と協力して地域の子どもたちにガラス工芸体験してもらう事業は、今年で3年目を迎える。今回、市教育委員会や個人作家の協力、授業内容の短縮を図ることで、前回後の課題であった複数校での体験授業実施を実現することができた。

今後の事業の展開としては、ガラスによる文化活動を根付かせるために、体験授業を継続化させる方向性を見つけていくことにある。そのためには、今のところ3つの課題があげられる。

##### 課題1 体験授業の受け入れ校の確保

体験授業をしたいと名乗りをあげた学校で実施する形が理想であるが、そのためには、この体験授業がどのような学習で活用することができるかを学校側に明確に提示し、体験授業の認知度をあげる必要がある。また、学校教員のガラス工芸体験授業への理解を得ることも必要で、教員自身がガラスに親しむ環境作りを行っていくことも、学校との連携事業を継続していく上で必要である。



マドラー作りに参加する教員

##### 課題2 授業に協力する講師の確保

学校からのリクエストにあわせて柔軟に対応できるよう、講師候補の作家を募って講師登録リストを作成する必要がある。そのためには、講師の謝金や保険加入、指導要領などを明記した募集要項の整備を行うことが必要である。

##### 課題3 財源の確保

市民を対象にした普及事業の必要性について県や市などと協議し、財源の確保に努める必要がある。